

平成27年度第2回名張市快適環境審議会会議録（概要）

1. 開催日時 平成28年2月16日（火） 午後2：00から4時10分

2. 開催場所 名張市役所2階 庁議室

3. 出席者

委員 加藤 進
朴 恵淑
清水 敏代
今村 洋子
辻森 保藏
福田 尚子
福廣 勝介

事務局 生活環境部長 藤岡 善光
生活環境政策室長 関森 弘康
環境対策室長 藤野 泰司
環境対策室副室長 岡田 隆之
生活環境政策室 平尾美津代

4. 欠席者

委員 森田 宏
田畑 博

5. 内容

- (1) 会長あいさつ
- (2) (仮称) 第三次なばり快適環境プランについて
 - ①修正案の説明
 - ②環境像、施策の体系について
- (3) その他

平成27年度第2回名張市快適環境審議会会議録（概要）

（1）会長あいさつ

○会長

皆さん、こんにちは。もう早くも第2回目になりますが、委員の皆さんの努力と事務局の努力で、新しい第三次なばり快適環境プランの顔が見えて、数値目標やそれから最近の社会的あるいは国際的な動きも盛り込んだ内容に、かなりいい形で仕上がったのではないかと思います。今日はこれを最終的に皆さんの公認をもって、こういう内容だったらどうかということ、もしできれば決めさせていただき、それからこれからの流れとしては、パブリックコメントもあるでしょうし、それから議会への説明、庁内の最終的な詰め、いろんなことあるかと思いますが、審議会としては順調に進んでいるということですので、引き続きどうかよろしく願いいたします。

1.（仮称）第三次なばり快適環境プランについて

（1）修正案の説明

（事務局）資料に基づき説明

○会長

ありがとうございました。11月にたたき台ということで65ページになる、私から見るとかなりその時点でよくできているというものはありました。

その中で、どうしても数値目標がよく言われているが、数値だけが先走るということ、いかなものかなとは思いますが、数値化できるものは数値をあげてみると、どうしても定性的な表現でとどまるということがあってもいいのではないかということでしたが、ほとんど何らかの形で数値目標をあげたと。それが非常にありがたいことですが、話を聞きますと、名張市の最高位を占める総合計画の数値目標が非常にあいまいな部分。環境から見ると、これが数値目標かと思うようなものもけっこうあって、それが結果的に第三次の私たちが考えようとする環境プランのところで、かなり足を引っ張るようなものも正直にありました。そういう部分を尊重しながら、だけど頑張れば何とかなるのではという部分は、引っ張り出して考えてみたらどうかというものもありました。そんな中で、消されたり、数値が11月に出されているものより上がったり、そのままになったりということもあると思いますが、多岐にわたる部分ではあります。委員の皆さんから、まずは出されたものに対する意見をいただいて、あと他にも委員からいろいろ意見が出ました。その資料がお配りされていると思いますが、それに対して皆さんの意見をちょうだいしたいと。

それから、廃棄物に関する数値目標がこれでいいのかなというところなどなど、色々皆様からの意見をいただきたいと思います。まずページごとでもいいですし、どのページからでも構いません。

○委員

この資料を最初にいただいて、私の理解が間違っているのかなというのはありますが、まずこの三次プランについて、基本的には二次プランのように具体的な実行プランはこれから示されるということではないんですか。二次プランはこれがあったと思いますが、その

辺が明確になって、これができるのではないか。

それと前回もお話があったように、成果の総括表、4段階になっていますが、1段階増やして「後退」。「後退」は行政ではあってはならないことだが、いろんな環境のことで以前よりマイナスなると、その辺を明確にすべきでないかと思います。

それと、個々の文言は私も詳しくは分かりませんが、基本的にこのプランは立派なものです、やはりこれを絵に描いた餅にならないようにどう具体的に実行していくか、この辺が今後の課題であります。

それともう1つは今回のプランは、生活環境もありますが、自然環境が中心になっている。これは名張全体の環境という形で考えておられるが、名張の15地域の中には、やはり生活、住んでいる環境、団地型、農村団地併用型、農村型色んな形があります。その中で、もう少し生活環境に対して色んな課題があるかと思います。その辺が、詳しいことを行政がどこまで分かっているのか。表面だけしか分かっていない部分もあるので、もう少し15地域とのヒアリングの中で各地域の生活環境の課題等々を、それを個々に挙げるのではなく、全体の課題としてどうしていくかということも必要ではないかと思いました。

それと、住民参加型が今後進んでいくと思いますが、講習会、交流会等々があり、形式的にこれをやったわけですが、実績づくりではなくて、そこからいかに住民のボランティアの参画、それをどのようにしていくかが大切ではないかと考えています。あくまで、名張市の場合は15地域の中で、地域協議会それぞれの中で、色んな対策等々を住民1人1人がやっていて、その辺を、お互いに協働、対等と言いながら協働歩調を合わせるという形も今後の課題であると思います。

それと、この案には色んな担当機関、室がありますが、やはり行政の中で色んな面で、行政自体の横割りでのコミュニケーションが必要な部分も多々出てくると思います。実行するにあたってはその辺をお願いしたいということ。それと、現実問題として快適環境プラン実行にあたっては、当然行政の役割、責任は大ですが、同時に住民、特に名張市15地域のそれぞれが行政と協働を担うべきもので、その中で色んな矛盾点がでてきているのは、情報の共有、それが充分になされない。例えば個人情報、たいしたことではないが、個人情報を変に、私から言えば歪曲している。それと法律か条例か知らないが、その中で住民が動きづらい。例えば家庭の剪定等々で、住民が住民の心の循環型の生活の中で色んな助け合いが行われています。その中で、色んな条例なのか法律か分からないがしばられて、動きづらい、その辺が今後こういう立派なものがあるのですから、一住民、また自治会が活動しやすいように、課題をピックアップしてやっていただきたい。今後運用に当たってその辺が大切です。

それと先ほども言いましたように、名張市だけでなく近隣自治体との、ここは伊賀市と近隣で、大きな環境問題として、名張市の隣の伊賀市に産業廃棄物工場があります。以前は青蓮寺の上に不燃物の最終処分場がありました。その辺については、名張市はチェックされていると思いますが、どこまでチェックされているか、そういう細かいことは書かなくてもいいですが、そのような以前の負の遺産に対してどういうチェック機能があるのですか。前向きなことはいいですが、それが後になって後悔しないような対策を今から打っていくべきじゃないかなと考えます。

○会長

ありがとうございました。意見をどんどんいただいて、それをどのように反映していくのか考えたいと思いますので、意見を皆さんからお願いします。

○委員

それでは、私の方はそれぞれの項目の中に入っていきたいと思います。まず修正していただきました森林整備のことですが、ここにいらっしゃる皆さんには、森林の重要性とか、今抱えている森林の危機感というものが、いかに大変なものであるかは重々ご存じの方々だと思いますし、今三重県の方でも、緑の県民税において充分に対応していこうということとです。その交付金の使途につきましても、県と市町とで半分半分でいこうじゃないかということにもなっています。そういう大きな土壌がある中で、その森林整備について、やはりもっと大きな目標を掲げていただき、健全な森づくりがこれからの環境を考える上で絶対に欠くことができないということをしかりと目標立てていただきたいと思っています。

それぞれの市町の森林整備計画もあがってきているはずですが、この間も農林の方にお話を聞きに伺いましたが、まだそれぞれの林班のデータはあるが、ゾーニングという点で図示化したものは、まだこれからという段階というお話も伺いました。そういう中で、どうすれば健全な森づくりができるかということの基本になるような文言をここにぜひ書いていただいて、そして、その中で1つ私が強く思うのが、やっぱり森林の整備を担うことのできる人材を育成していくということ、その辺のところもぜひお願いしたいと思っています。

実は、まちづくりの方でおもしろい動きがあります。というのが、私どもの団地の端の方は林の端ですが、そのあたりで公園を自分たちで整備しようという動きになりまして、そうするとやっぱり林の中の倒木とか木がすごく邪魔になって危険でもあるし、獣害にもなるということで、ではこれをどうすればいいのかということで、結局自分たちでしないといけないという状態になっています。そこで、じゃあチェーンソー頑張って習おうじゃないかとか、林家の方に教を乞うてやろうじゃないかという動きになりまして、自分たちで公園整備を手掛け始めています。それがすごく自然公園化してきて、いい動きになってきています。

確かに林業というのはボランティアとするには限界があって、非常にリスクも大きいですが、そういった新しい取組といますか、思いもかけぬようなところから少しずつ森や環境が、人の手で新しい意味合いを持って生まれ変わる萌芽ではないかと考えています。ですので、本当に小さな取組ではありますが、そういう大きな視点でとらえて人材を育成していくというようなことを、ぜひ、その辺のところからもお願いしたいです。

それから、市民を巻き込んでいく、そういった視点が絶対に必要であるし、行政からの立派なプランを出されたそれだけではなくて、それぞれが、例えば行政であったり市民であったり業者であったり、それから地元の人たちがどの程度自分たちの問題として関わっていただけるかというところをしっかりと考えていかないと、本当に絵に描いた餅になってしまうのは全くもったいないので、その辺の取組が必要かと思っています。

それから最後の方で災害のない安全な暮らしの確保というところがありましたが、ここに、上から5行目のあたりですが、「地震防災対策を推進するとともに、風水害などの自然

災害をはじめ、あらゆる災害から生命財産を守るため」とあります。このところでぜひ加えていただきたいのが、昨今、非常に皆さん危惧しておられる地球温暖化による気候変動、それに伴って起こっている大規模災害。その辺が大きな自然災害を引き起こしている実例が色んなところで出てきています。先ほど事務局からのお話にもありましたが、名張市内でもまだ調査が行き届いていないですが、非常に急峻な地形の中に、手入れされていない人工林が埋まったままで、本当にいつ土砂災害が起きてもしょうがない、おかしくないというところがたくさんあります。そのようなことも含めて、気候変動による大規模自然災害の多発に対応するための対策、考えをぜひ入れていただきたい。

また、そういうことに対して、人はどのように対応するのかということを書いていただいているが、起こる前の、災害を減じていく減災という考え方、その減災という考え方でもって、じゃあ環境をどうするんだ、自然をどうするんだ、まちづくりをどうするんだ。起こるのはしょうがないです、でもそれをもっと減じていくためには、どうすればいいんだということについてお願いしたいと痛切に思います。それは都市計画であったり河川対策、森林整備、農山村の保全であったり、その辺のところは色々だと思いますが、減災という考え方をぜひ入れていただきたいと思っています。

○会長

ありがとうございました。では皆さんに意見をいただいて整理してみたいと思いますが。

○委員

1 ページ目の計画の考え方のところで、「名張市ではこれらの社会情勢の変化に対応し」と、その背景を書いていただいているのですが、外部環境だけではないかと。もっと市民サイドの変化も書いていくべきではないかと。名張市も人口減少とか超高齢化になる中で、市民の方一人一人が自立されて行動していく、自ら公の担い手として行動していくという、国がどうの、世界がどうの、地球を取り巻く環境がどうのだけではなくて、この計画自体は市民のものなのだから、市民の、名張市の変化、市民サイドの位置づけ、市民参加のステージのあり方みたいなものをもっと盛り込まないと、何か最初があまりだと、市民受け身みたいな感じの計画の考え方ではないかという意見があります。

8 ページの市民・団体による活動の推進でも同じような意見があり、やたら「支援」「支援」という言葉が出てきますが、ここも、市民活動と行政の支援みたいな位置づけではなくて、もっと市と市民との協働を盛り込んだような内容の施策を書けないかという意見が出ております。あとまだ色々細かいところがあるんですが、大きく言いたかったのはその辺です。細かいのは時間があれば、または事務局に直接渡します。

○会長

はい、分かりました。では後ほどまたお話していただきましょうか。

○委員

では、教育の立場ということで、たたき台の1 ページですが、ここは目標項目と数値については空欄でしたが、はてさて何やろう、蔵書の数かなと思っていたところ、教育の場に環境ということでゲストティーチャーに赴いてくださる方の割合、逆に言うと、私たちから言うと、招聘を行った学校の割合となっています。なかなかこの数値も設定の仕方が難しいと感じました。まず小学校でしたらそれぞれの学年がありますが、1つの学年でも招聘した場合を1 とカウントしていいのか少し疑問ですが、なかなか数値ではどうやって

表すかということを考えました。

さらに、私たちの立場から言うと、ゲストティーチャーとして来てくださる方の数値になるんですが、このたたき台13ページ、逆に来てくださる方の回数と受講者数というのはある程度、連動した数値になっていなければいけないのではないかと感じました。これが連動した数値になっているかどうかは分かりにくいと思います。学校だけではなく、学校・地域等へということになりますと、学校の割合、増加よりもさらに目標値は上がってもいいのかなと考えましたし、先ほど言いましたように、学校は1学年、1クラスに来て1カウントとした場合、複数学年に来たら、それでも1とカウントされるので、この設定はなかなか難しいなと思いつつ見せていただいています。以上です。

○会長

ありがとうございました。

○委員

僕、後出しで、今日朝から書いたようなことで申し訳ないんですが、先に、4段階評価の話ありましたけど、それはどこですか。後で教えてもらえたら。それから、公園づくりされているのはどこですか。

○委員

つつじが丘です。

○委員

桔梗でも緑の会がチェーンソー使って、4大公園全てでやっています。

○委員

僕、総論屋で数値目標、数値、思いつき苦手な人です。専門家でないので、総論で言わせてもらいます。1番の僕の認識は、名張の環境、自然と景観がもうめっちゃくちゃ劣化しているのではないかという認識が、ここのどこを見ても書かれていない。豊かな自然に包まれて。こんな今来た人はいいかもしらんけど、昔からおった者にとってみたら、川や山の惨状見たら、そんなどころやないやろうというのがまず1つです。

もう1つ、本当にディテールについてよく分からないが、各アイテムで一生懸命書いていただいていると思うが、何か気迫のあるベーシックな哲学部分が欠けているのではないかと感じております。基本的な考え方はそんなところですよ。

9ページの文言のところから行かせてもらいます。「本プランは新・理想郷プランの環境分野」と書いていますが、それではなく、環境から見た新・理想郷プランではないか。総合計画の中に環境部分がそこだけ独立してあるのではなくて、総合計画を環境視点で見たら、どんな問題があるかって、総合計画を全部見ないといけないのと違うかっていうのが思っていることです。ちょっと哲学部分が…というところがそこなんです。

それから、環境目標の4、循環型社会で「清潔できれいな快適環境」と入っていますが、循環型社会と清潔できれいってこの文言がどうも違和感がある。これを無理に合わせなくてもいいので、違う2行にした方がいいのではないかと感じております。

それから3つ目、環境教育に「生命教育」と「景観教育」入れてほしいと思っています。環境教育って何や。川行って虫とって、これ何やら田んぼのヤゴやって、それ僕も大好きで、僕行ってるけど、もうちょっと命の大事、景色の大事を教育せなあかんのではないか。この辺が抜けていると思っています。

それから先の方を読んでもらわないと分からないが、僕は環境目標1というのは、1に置かずに1番下に共通として置いた方がいいのではないか。他の大気であるとか水質であるとか自然とかいう目標があるが、これは地域コミュニティとしての活動を市民参画と協働でやろうと言っているんやから、これはどの項目にも関わるものなので、環境目標1として書くのではなく、共通項目として出した方がいいと思っています。

それから12ページの美化活動、まあいいけど、町中ちょっと美しい何かしようかというのと今の環境問題の切迫したのがちょっと合わない。きれいにしたらいいが、そんなこと大きな目標にわざわざ出すことではないのではないかと思います。

それから学校での研修とかあるが、市内にすごいエキスパートがいっぱいいます。市役所ではエキスパート登録をだいぶ前からされていますが、例えば僕の知り合いなんかは小水力、水車で日本のトップランナーです。8年間登録させてもらって、一度も声がかかったことないと言っていました。いっぱい専門家いるので、もっと積極的に使って、これ多少お金出すか、出さなくても協力してっていうのもいいと思う。

それから、15ページ、水質を書いているが、これはやっぱり川に水質だけっていうのは大きく手落ちだろう。水量を書かなあかん。それから名張川、青蓮寺川、宇陀川いわゆる本川を書いてあるわけですが、名張の川、僕ら子どもの時に馴染んだのは、築瀬水路はじめ、農業水路はじめ、小さい川です。この川が大事。ちなみに、この水路の管理の時に完全に水が落ちる時があって、魚がみんな死んでいます。みんな川を見に大阪から来てくれて、川の魚が白い腹出して死んでいるのを見て帰る。そんなことがあります、何回もお願いしたんですが。

それから16ページの水道、飲料水の水質も書かれています、これ河川の水質にも触れてもらわないとあかんのやないか。それから、今災害時協力井戸という制度が始まっています。せつかく地域で一緒にやっているやつを、これ絶対に謳わなあかん。ちなみに僕のところも一応登録させてもらっています。

それから、31ページですが、空き地の農地化と再現化、非常にいろんな手続きが難しいと思うんですが、団地の空き地を放っといたら草ボーボー、何とかそこだけでも、同じグループの人が菜園に使ったり農地に使う、役所が間に入ってできるのではないかと思います。やりたい人いっぱいいます。

それから34ページの自然環境の保全のことを書いてくれてある。これは僕にしてみたら読んでいられない。認識甘い。本市は豊かな山々に囲まれ、名張川…と多く書いているが、ほんまかいこれって思います。冷静にあかんやつは書いて、それを復元したらいいのだから、そんなことはきちんと書いた方がいいと思っています。

それから35ページは農地、殊に水田は動植物を発生、生育の場としても非常に大切。僕が尊敬している宇根豊という男は、日本の生き物は田んぼが生んだと言っています。植物動物2000種類くらい調べあげましたが、我々が知っているほとんどの植物は田んぼからつくられているという、そんな言葉も。ここには生物もということをしっかり書いてもらうことと、地産地消による食料の地域内自給率の向上もふれてほしい。

36ページ森林ですが、地産木の積極利用、ここで名張市内の家建てる時に使ってもらうことが1番最初やないか。なかなかどこもうまくいっていないが、というふうに思います。

それから37ページのタイトル、水辺の保全だけでなく、水辺の保全と景観醸成、親水活動と、これ3セットやと思う。これ入れてほしい。

39ページは生態系の評価というのは、数値で評価する方法は、専門家があるのかは僕はよく分からへんけど。そういうのがあれば数値ができたり、変化が分かりますけど。それから猪、鹿の獣害コメントが入っていないです。

それから40ページの園芸活動から生まれるものの、苗とか、町中の緑化みたいな活動をしてもらう。さっき僕、美化、緑化って言うのは小さいって言ったけど、せつかくやから地域内。

それから41ページですけど、環境の地産地消。この言葉は他にもあまり使っていない言葉だと思いますが、これ僕の信念ですが、地域内での廃棄物を域内で処理するのは当然やし、そこから出てくるものも、そこで環境を生むことを考えたい、消費することしか考えていない。僕はこの30年ほど、団地の方がたくさんおられるので恐縮ですけど、名張の人口が増えたのは、それは自然を食い潰したからやと思っているが、この視点がないなと思っています。住んでいる人が悪いと言っているのではないです。それから低炭素社会と書いているが、低炭素というのは必ずしもCO₂が全部あかんのと違って、バイオマスなら別に地表のマイナス1m成層圏の中で動くのだから、少なくとも数十年の単位で循環するので。こんなんしたら人間生きられへん、お前息すると言われてますね。シェールガスとか地下の深いところの石油とかを使わないようにするという、掘り出してきてCO₂出すからそうだということ。これを混乱しないように書いて。地表生態系っていうのも僕だけが言っている言葉なんで、世間の言葉でないんですけど。

それから地域団体の53ページです。再生エネルギーの創出ですが、これやっぱり絶対、地域団体がやってもらう項目を強調してもらうようにして、地域の団体が発電所を持つ、この間岡山の宍粟市の話聞いて来ましたが、感動しました。これで地域コミュニティーがますます強くなっていっているんです。

それから54ページ。良好なまちなみ景観か。これは名張の場合、大阪ならともかく地域の緑化は田園緑地、森林緑地との連続性の確保を意識すべきであると思っていますが、僕町中に住んでいまして、とんこ山への道、あの道の緑のなさ。とんこ山いいなって言っているのにそこへつながったら、景色としてもつながったらものすごくいいのにとというのが僕の意見です。それから低木管理とかは地域団体などに依頼だけではなく、安価での委託も入れたらいいと思います。労働としてするのかどうかになったら、地域の話し合いしないといけないと思いますが、頼むだけではなく安価に委託も入れればいいのでは。

それから56ページ、緑空間の話が書かれています。緑空間は野生動植物の生息、育成だけではなくて移動ルートにもものすごくなります。これはもう緑のネットワークをつくるのに大事なことなので、この視点は入れておいてほしいと思います。それからぼくも団地屋ですが、団地の終い方って言っているんですけど、団地の集約化、農地化を試みる、ものすごく極端に言えば、1ブロックに10軒あって3軒空いたら7軒に集約してあと3軒、こんなもの私権があってどのようにするのかというのがありますが、真剣に考えていかないと、何か法規制も考えていかないとやれないと思っています。

それから57ページの、現状と課題の上2行、よう読んでられないという感じです。そ

れから59ページ。文化財の話がありますが、これ財だけではなくて、祭りとか行事といった無形の文化そのものの保存維持も謳いたい。文化財って物を言っていますが、無形の物も。僕の友達「春を呼ぶ会」頑張ってるんですけど、例えばそんなもの。

それから60ページは、自分の住んでいる地域の景観の現状評価が73.7%って僕にとっては信じられないと思っているが、ほんまにこんなに高いの。ほんまかいな。

それから62ページの食品の安全を質だけではなく、地産自給率を上げる量も。これ質の話しか書いていないですね。もっと量を上げないとあかんということ。以上。

○会長

ありがとうございました。その他にないでしょうか。

それでは、1つの魂を入れる作業が、(2)のところで、イメージとそれから施策、どうするかということですが。

それに行く前に、皆さんのところから、本当になるほどと思われることをいっぱい言っていただいた。

しかし、環境からみた総合計画は多分無理です。ぜひとも市内でのいろんな会合の時に、快適環境プランをつくる我々の委員の中からは、非常に積極的で最もなことがいっぱいできてきたと。

例えば、森林のことや自然とか、環境と思うでしょ。けれども林業、何々業、何々業となってくるとこれが農林水産商工とかそういうところになってしまうわけですから、環境といえどもなかなか厳しいものはあります。けれどもここまで来たからには、あの手この手使って盛り上げてやっていくということに私も賛成です。だからさりげなく、森と緑の県民税をうまく使いましょとやっているけど、正直、10億以上のお金の半分を市町でやるんだと言っても、環境が手を挙げるんじゃないんです。農水が手を挙げないと、環境でいくら手を挙げようとしても、窓口が違うんです。だから、名張から手が挙がらなかったと聞いていますが、勿体ない。余ったお金がどこに行くかという、答志島とか。ごみも山から川から海から家から出るものですから、それはそれで反対ができないですが…名張から手が挙がったんですか。

○事務局

森と緑の県民税については、市町の人口とか色んなことで、まず額が決まっている一般部分。これについては今日もお話ありましたが、森林関係の各公園、桔梗が丘、つつじ、それから比奈知等、それに森と緑の県民税使わせていただいています。

○会長

ありがたいです。ただそれは微々たるものです。もっとあるのがあるんです。

○事務局

もう1つ大きい方で特別枠というのがございまして、そちらの方については5年間で最大で各市町3000万ぐらいでしょうか。そのうち今年で1600万ぐらい、県内産の木材を使ってということで、保育所を建てておられますけど、そこで活用するというので1600万か700万ぐらいいただいていると思います。

その特別枠の方、あと3年ほどございまして、3000万まで何とか頑張りたいというのは、去年の4月まで農林でおりましたので、そんな話をさしてもらいました。それと漂着ごみの関係の方ですけども、名張市の水は大阪へ流れます。ということですが、そち

らの方も若干いただくというようなことになっております。

○会長

ありがたいです。言いたいのは何かというと、環境はやれる、やる気もあるのにそれぞれ窓口が違う所になっているので、我々やりましようと言っているけど、本当に1番の窓口のところ手が挙がらないとなかなかやりにくい。ただ環境基本計画に基づいたこのプランはかなり重いものであるのは間違いないので、それをどんどん明文化して、そうだとするしかない。だから、数値目標は突拍子もなく高いものにして全部失敗したらこれも困りますが、あまり達成できなかったと言っても、あぐらかいてやらなかったのではなくて、一生懸命やっているが何か足りない、これが足りない、あれが足りない、だからできなかとできれば。幸い名張はISO14001の名残りを持っているEMSが残っているので、そこはPDCAがこうなっているとせば、環境の責任にはならないで市全体でやりましようとなるだろうと、そういうの見込んで。部長、厳しかったと思います。

○事務局

まさに、できるできないの話はともかくとして、実はこの案をつくるについては、環境が直接携わるもの以外の、いわゆる横断的に農林とか都市計画とかその他の部署がそれぞれに自分のところの事業として業務として環境に視点をおいた事業に取り組みますと言って持ち寄っていただいて、ここまでつくらせていただいた。それは現時点でその担当者ができるものなりというだけの思いでここまで来たんですが、まさに今日おっしゃっていただいた意見で、その視点は聞いていてごもっともやと。そういう視点が抜けているのかというようなことが、当然聞かしていただきましたが、言葉が多くてメモできなかったので、テープの中で委員さん方々のご意見とか考え方を、もう1回その担当部局にこういうご意見出ていましたと、フィードバックさせてもらって、そこで改正とか文言修正するとか、取り組める範囲のことを整理していただいて、ここに反映させていただければと、それしか今もって直接の事務担当部局としてやれることではないので、その辺で時間いただきたいなと思います。そんな形でよろしいですか。

○会長

そのようにして、ある程度いい意味で揺さぶりをかけると非常にありがたいんですが、これ時間はいつまでやればいいんですか。

○事務局

この計画は29年度から実施になりますので、実は28年度1年間かけて計画策定していただいても時間的に余裕はあるんですが、逆算していきますと、パブリックコメントを実は秋ごろにとりたいと思っています。ですから、夏までにこの審議会として、中間的に審議会の案としてはこれでよしという形でまとめあげていただくのがいいかと。

当初、第1回の11月にご説明を申し上げた通り、今年度についてはあと1回か2回。それから来年度もまずいったんおまとめをいただいて、その後、内部調整、それからパブリックコメント、ここまで持って行くまでに2回ほどの会議は予定しております。

それから、10月から11月がパブリックコメントということでございますので、5月の末もしくは6月ぐらいにはいったんお定めをいただきたい。

ただ、各部署、セクションから人を集めてやっております。ですからいったんは、今日のお話などは整理させていただいて、全部その担当の者に戻し、相談させていただきます。

ただ最終的なできあがりには、いったんできたものを再度皆さんに見ていただいと機会をつくりたいので、だいたい4月の末ぐらいに型をまとめていただければと考えております。

○会長

まとめの中で、私ももう少し勉強しないといけないと思ったことがいくつかあります。名張、中にいる方、外にいる人ってどういうイメージなんだろうと冷静に見てみたら、事務局から言われてハッと気がついたんですが、エコツーリズムとかもいち早く指定受けたとか。それが皆さんは当たり前に行っているものが、ちょっと離れたところにいると、答志島じゃなかったっけと思ってしまうんです。これは私が勉強不足で反省ですが、私だけではなく私の同僚にも聞きました。エコツーリズムってどこって聞いたら、みんな答志島とか。13人ぐらいに聞きましたが、名張という人は1人もいなかった。それだけ三重大大学の先生がだめなんです、そうではなくて伝わり方が弱かったのかなというのがあるので。例えば、普通エコツーリズムと言ったら名張は何があるんだろう、みんなも何があるのって言っていました。

だから、地域ではあまりにも恵まれすぎて気がついてないものだとしたら、この際はっきりと書きましようということがいくつかあるのに気がつきました。自然は当たり前かもしれないが、それを活かした産業や観光がきっと育っている、まちづくりにつながっている。エコツーリズムは伊勢志摩サミットからでも、名張のエコツーリズムが1言も出てこなくて志摩ばかり言われていた。それも考えるところかなというのが1つありました。

それからバイオマスタウン、これもいち早く名張は定めている。その後スマートシティとか色んなことをやっているのに、三重大の先生に聞きましたが、バイオマスタウンは津か松阪だと言うんです。だから名張のことがあまりピンとこないことにショックということです。それは私が本当に勉強不足なのは反省ですが、市ももう少し全国的にやるべきかと、我々にとってこれは大変重要なところで、事務局で拾い上げていただいたものを、もう1度、どこが良くて、どこがだめで知られていなかったのか、どうなっているのか、もう少し見てみるのも必要で、エコツーリズム、それからバイオマスタウン、それともう1つ廃棄物でした。

私は、環境省の3R推進マイスターで色んなところへ行き、名張市はNo. 1と言っているのに、731gから10年経っても720gというのは、これはどこがネックなのだろう、あれだけ徹底的に分けていただいて、廃食油もいち早くバイオディーゼルにし、それから生ごみは別に出そうとか、色んなことをやっているのを分かっている私から見ると、どこがネックで10年経っても10グラム、卵の5分の1しか減らないのと。これは限界ですということなのか、何か仕組みに原因があるのか、例えば金持ちが多いとして、剪定からでるようなものは全部ごみで出せばごみだけ、それは別立てにして、出さないようにするとか、あるいは乾かして何とかするとか、そういうところに回すシステムにすれば。出さないことが大事。あれだけ重たいものがなくなる、どこかに回すだけでも、500gとか600gとかあつという間にできそうな、730gから卵2個、100gだけ減れば630gです。そうしたら名実ともにトップランナーで走るのに。

三重県の中でも、御浜町は、南の方の1万人しかいない町で1300何十gでワーストNo. 1でした。今は780gまでいっています。どうしてできたか。みんな目の色変え

て何ができるか考えたとき、剪定だったんです。剪定はごみとせず、別で収集しそこで乾かしています。それでチップにするなど、ごみとして持ってくるなという感じで、町が責任を持ってやっています。さっきも剪定について話がでてきたから、やっぱり1戸建てが多いからそうなのかな。何で720gしかできないのか、それを教えていただければ。

○事務局

今お配りをさせていただいているプリントの中で、家庭ごみの有料化を、市民の皆様方の協力により平成20年度から実施させていただいた。その前年の平成19年の有料化する以前の話ですが、家庭系のごみと事業系のごみ、いわゆる可燃ごみ、資源、粗大、全て合わせたときは3万3292tということで、これは左の表の2段目の実態調査の数字です。33,000tから平成26年度には21,639tということで、大きく減らさせていただいた、その結果が現状の731.1gと。

ごみは人口が増えれば当然、その分だけ増えるので自然増ですし、人口が減少すれば自然減ということになります。731gの実態から5年後は725g、もしくは10年経って720gだという数字は、確かにもっと減らすことができないのかと、究極のポイントはそこになるわけです。これまでごみゼロアクションプログラムによりまして、組立上は生ごみの資源化を図りましょう、それから今現在やっている容器包装プラスチック以外の製品プラスチックの資源化を図りましょう、そういう施策も実は計画上は載っていたわけです。そんな中でありながらも、結局、生ごみの資源化については平成22年度23年度2カ年、ある地域の方々に協力いただいて資源化の実証実験をやらせていただいた。しかしながら、やっぱりそれを集めるための分別、排出の協力をいただくということと、それを分別収集するための収集費用、集めたものを資源化する堆肥化施設なりそういう施設を整備していくということの費用対効果の部分で、非常に近年の財政事情厳しい中においては、もう1歩のところやっぱり難しいということ。今、気持ち的にはそういうことが進められたらありがたいと担当者としては思っていますが、現実的にはそういうハード的な行為はもう起こせない。この先10年見ても今の段階の財政状況の中では新たな施策を講じていくことが難しいだろうと。

だから、そういう観点から725gなり720gなり、0.8%減ぐらいの数字しか起こせない。やはり、実態を見て戦略的に何かがやれるという思いがあるならば、650ぐらいの数字で戦略的にあげるということもできるが、やはりそこまでいききれないかなということで、今この数字におさめさせてもらっていると。

ですから、今現在やっています不燃ごみの中に入れていた小型家電物、公民館とか、市役所の玄関口に置いている拠点回収方式でやっているものを、月1回の資源回収につけるとか、そういった講じられるべきものをやればと思いますが、収集費用の部分で突入できないというところ。残念ながらそういう思いで、今の組立上、この数字で行かざるを得ないのかなということ。す。

残された手立て、市民啓発ということでのご協力をいただく中において、単にホームページとか広報での啓発ではなくて、やはり地域づくり組織さんのご協力をいただいて、ごみの分別排出に関わる、その品目、頻度を高めるとか、もう一息減らしてくださいというようお願いとかも合わせた啓発や説明会、そういう部分に専念するしかない。それしかないなと。

○委員

名張の分別収集と言えばやはり秀でて、皆さんよくやられています。細かすぎますが、それは別として。

○事務局

そういう思いで今まで取り組んできましたが、今の段階ではこれ以上もう1歩が踏み出せないという思いです。ですから、市民の皆さん方に分別排出、減量化、資源化のご協力をいただく啓発という手立て、もうこれしかないと思います。

○会長

どうしたらいいのかということ、これだけ腹を割って話ができる審議会も非常に珍しくていいなと感じていて、責めるとか責めないとかそういうことじゃなくて。

名前がいいじゃないですか、快適環境。名張は快適な環境だよ、いいんだよということ、1つ大きなイメージアップに成功して関西方面からたくさんの方が移住するようになった。そのような中で、次、若い人たちをどうするのか、どんどん歳を取っていく中でどう活性化していくのか。これは、まちづくりだけじゃなく、我々の環境の側面からもやっぱりその辺を見据えた形でどのようにいいところへ更にもっていくか。

これからの10年先を見込んでいるので、途中でだめなら見直しをかければ何とかなるんですが、せつかく手間暇かけてみんな集まってやっているの、誇れるようなものをつくりたいというのが我々みんなの共通したものだし、これがここで動きが出ると、次の総合計画が変わります。正直に申し訳ありません、総合計画がいい、悪いということは私が言えるような立場ではないが、その数値をもってきてやらなきゃいけない立場から見ると、モヤモヤが多すぎて、環境があんまり先にいっちゃって総合計画がついてこられないようなことが起こりうるということもあって、どうバランスをとるんだろう、これ幸せな悩みかもしれないけど、それも正直にありました。

そして、もう1つ皆さんの意見をいただかないといけないのが、イメージ、まだ少し時間があるようなので、4月、5月、6月だと考えたらいいと思うんで、今日はざっくりばらんにどういうイメージを持つのか、どういう施策体系であれば、こういったものがみんなに浸透して誇れるものになるのかということも考えなければいけない。

このたたき台の3、4ページ、ここに今日はきれいなキャッチをつくるのではなくて、キーワードだけでもいいから、ある程度のイメージアップができれば、今言ったように地域住民との協働だということをもっと出していく。

4ページもそうですが、名張のいいところは、目標1が協働の取組なんです。普通これは1番最後にきます。たたき台の4ページの目標1がだいたい目標6、7、8にあります。名張がすごいのは、まずみんなで作るんだということを目標で謳っているんですね。これはなくしたくないなというのがあって、そのわりには中身が弱かったり強かったり、色んなものがあるからまだ問題があると。これをどうやってうまく整合性をとるのかということが大事ななと。

また意見もいただければありがたいと思います。

○委員

ある程度の講習会とか講演会があります。名張にもけっこう色々な場所がありますが、それは来れる人しか来ないんです。例えば、地域ごとでどうするか。例えばここにも書い

てあるように、どこかで集めてやって、そこから専門家を育てる。それも1つの手だが、非常に難しい問題ですが、もう少し小さな単位でいろんな形でやっていくという中で住民参画し、何でも住民がやるのではなく、基本的には市が責任を持って、それを住民に協力を願うという形。何回も地域15か所に行くわけにはいかないのは分かります。その辺が色んな矛盾もありますが、要するにリーダーを養成するという名のもとにおいて講演会やるんですが、そのリーダーが例えば1人だったら、その人をいろんな組織でつくったらいんですが、どこの地域へ入ってやるか。

では、名張でリーダーをやらせてもらって、名張の行政に入って活動するとかそういうことではなく、今までそういうリーダー養成が過去に名張でありました。しかし、その情報は行政がもっていて、こういう人がこういうリーダー養成講座に来たよということを地域にフィードバックしないから、誰が受けているか分からない。よっぽどやる気のある方だったら自主的にやりますが、非常に少ないです。

○会長

せっかく人材バンクみたいに登録しているのに、活用できないとかそういうのですか。

○委員

それを情報公開していない。行政に聞いたら分かるかもしれないが。

○会長

例えば学校とかでも、ゲストティーチャーなどお願いしようと思うと、どなたにお願いするのですか。教育委員会ですか。どこにですか。

○委員

僕がさっき言ったのは、たまたまその人は小学校の校長先生で、我が家で一緒に飲んでいて、うちに来てもらおうかと、そういう話でした。

○委員

あと地域で学校支援本部というのを持っているところがあり、そういうところは、さまざまな能力のある人たちが、私はこれできるよということを登録されていて、例えば子どものためにパトロールをされていたり、子どもの育性のために尽力いただいたりというようなことはありますが、なかなか環境面での働きってというのがなくて、1つ、県の方で森の先生とかそういうものはありますが、まだそれが機能しているという話はあまり聞いたことがないです。

○会長

人はいるけどあまり利活用できるようなシステムが見えてこないんでしょうかね。

3ページ、望ましい名張の環境について1つの例を出していただいて、非常にありがたいんですが、これを見て、後ろの「名張」がないと、これが名張だと思えるかということなんです。誰が見ても、「名張」と思われる名張らしさをどう考えればいいのか、これが1番最後の魂を入れるものです。

私1番最初、市の方にも申し上げたのは、この表紙を見て、もちろん表紙が全てではないけど、水がすごくいいところなんだということかもしれない。これを見て、「名張」が消してあったらどこだと思うかと言うと、名張と思う人は多分そんなに多くないのではないかな。だからと言って色んなキャラクターばかりつけてということではないんです。これを名張市民が見た時に、「あ、これうちだ」と思う人が何人いますでしょうかということを考え

たかったんです。そういう意味では名張の皆さんだからこそ分かっている、当たり前のように思われている部分のキーワードを出していただいて、そこを分かりやすい形で、小中学生が見ても、「名張」ということが分かるようなキャッチをまずつくらないといけないと思いました。

豊かな環境に恵まれ、それから未来をはぐくむという言葉、とてもいい言葉ではありますが、これは名張だけじゃないでしょということなんです。これはもう当たり前のこととして、だから名張は10年間、少なくとも5年間、環境ではこれをやるんだということが分かるものを皆さんの力でぜひとも一緒に考えていきたい。

○委員

このなばり快適環境プランの位置付けは、先ほど言ったように、全ての関係部署が引っかかってくるんですね。要するに自然環境、生活環境など全てこれを基にいろんな機関が考えていろんな施策を行うということにしないと、この分は他の機関がやる、この分だけ協力しましょうと、これではちょっと弱い。だから基本計画があって、その他にあって、理想論で申し訳ないですが、そのくらいの気持ちでやらないと環境問題というのは非常に大きな問題ですから難しい。それと当然のことながら予算の方も。自分で協力はしますが、やはりそれなりの予算は絶対ついてくる。何でもボランティアでお願いしますというのは。

○委員

会長さんから前回宿題をいただいて、私の中で言葉になかなかしにくいんですが、イメージでいくつか挙がっているのをお伝えしたいと思います。まず1つは皆さんから出たように「みんなで作る」という言葉です。それから循環ということと、交流、対流というようなことも含めて「人と自然がめぐりゆく」というようなイメージを。そして事務局さんがすごく推してらっしゃる快適環境都市っていうのをあってもいいのかなと思います。その2つが私はイメージで思いました。

○会長

ありがとうございました。

それともう1つが、「心なごむ清流のまち名張」、これは多分名張の皆様の中に当たり前のようになっているようですが、確かに名張の水はいい。「心なごむ清流のまち名張」ということで、どちらかと言うと、伊勢湾岸の東に住んでいる人は、清流のまちと言ったら、宮川のこと、申し訳ないけど。これだということをやっていくためには、生んだからには強く色んなところで、どうやって発信をしていくのかということのも大事だと思います。言ったもの勝ちで、別に嘘はついていないわけではないので、みんなの心の中で名張だということであるならば、それらしきという形でみんなが一緒になってやっていけるように、いいコピー、キーワード出していただいたので、それをもう1度精査をして、分かったというような感じになれるような作業をポチポチとやらないといけない。

幸い部長から時間をいただいて、ただ時間はあっという間に過ぎてしまうので、あまり緩やかにはできないですが。

今日は、会議のやり方を急きょ変えて申し訳ないが、今日キャッチも全部決めようと思っていました。3月までにやらないとだめだと思っていたので。若干時間をいただいたので、今日ここで急いでキャッチとか決めるのではなく、皆さんのいろんな意見をもう1度、みんなで考えて4月か5月か6月か、その間に平成28年度に1回は必ずまた開催させて

いただくことになりそうなので。そうですね。

○事務局

できましたら4月の末ぐらいいったんやっただいて、最終5月末ぐらいいにはお願いをしたい。それでスケジュールとしては何とかあります。ですから今日だいたいご意見もいただきましたので、できれば、3月ぐらいいに、今日いただいた部分をいったん整理させていただいて、3月に1回会議を持たせていただき、今会長の方からおっしゃっていただく通り、その魂の入れる部分についてはそれと合せて3月、そして4月には何とか決めていただければ、私の方としては非常にありがたいです。

○会長

では皆さん、4ページのところの目標1、2、3、4、5となっていますが、ここは非常にコンパクトにいい言葉でまとめられています、もう少し噛み砕いて、みんなで作るんだとか、今おっしゃられているようなものが分かるようにするならどうなのかということ、を頭にイメージしていただいて、分かりやすい直球みたいな形で並べてみて、そこからまた言葉を選んでやっていく作業も、各論にみんな入って、数値もある程度見えてきているので、次までには、3と4のところ、何々社会、何々社会となっていますが、そういうところで節目節目に名張らしさが見えるような言葉を散りばめていって、そこからみんなの知恵で落ち着かせるということも1つかなと思います。

ここで1つ気になったのが、あれだけ人を育てるんだと言っているが、この目標1、2、3、4、5のところでは、人を育てるということの強い意志が載っているかといったら、載っていないような気もするし、全部散りばめてあるのだとしたらそこまでだけど、そうならばそれなりの書き方があると思います。せつかく今人を育てる、それをどうするのか考えたいと思います。

それと細かいところですが、たたき台の48ページのスペルが間違っているんですが、IPCC、細かいところですが、この上の本文にもIPCCになっているので、ここもIPCCに変えていただければ。

皆さんに、ぜひともこういうところも考えましょうとかそういう提案があればいただきたいですが、今(1)と(2)合わせてのものにはなりません。(2)はあえてみんなで考えていくようにしてそんなに時間はたくさん使わなかったんですが、みなさんありますでしょうか。

○委員

僕はさっきも言いましたが、自然環境やら景観の緑化って話を仕切りにしていますが、これ何もひがんで引け目に感じて言ってるわけではなくて、それが事実であるなら、それをしっかり見て、その代わり復元しましょうというのを宣言してほしい。それを目標にしてもらったら。何か今本当はそうでもないのに豊かな環境と言ってしまうと、かえってややこしなるので、きちんと戻しましょうというのを宣言するような、全体どこもそうですけど、そのためにはそれこそみんなでやるとか人材育成とか、これ昔世間でもあまり考えなかったこと。こういう方針をきちんと出してもらえたら。

○委員

私は環境というのは、ある意味での循環ということがよく使われるので、その物理的な循環、それが1つの大きな環境ですが、その中で先ほどから言われている心の循環社会、

その中でどう関係していくか。人と人との絆、支え合いとかも含めて循環というのが、今後少子高齢化になってくる中でより必要になってくるのではないかなと思います。そういうことも1つのポイントになるのではないかなと思っています。

○委員

1ついいですか。これ基本条例ありますね。これは諮問の範囲外ですか。

何で短い1つ1つの文章にしないのか。達人の物書きしかあんな長い文章は書けないと言っているが。そこを書き直したいなと思うことがよくあって。これは諮問の範囲外ですね。

○事務局

ご意見ということでお伺いしておくしか。条例名称変える分については、それなりの理由が、裏付けが必要になりますし、なかなか。

○委員

僕もそれ承知しながら、意見だけでも書いておこうかな。ここはこう書いた方が分かりやすいのにと。文章をうまいとも何とも思っていないけど、読んでも分からないので。

○会長

アンケート調査をいっぱいやりますが、うちはやらないが、基本計画の時のアンケート調査などで、たいがい今がどうなっているかとか、あまりそこを無視して突拍子のないものやるわけにいかないけど、教えていただきたいのは、母集団はどのぐらいの方々にアンケート調査したのかが分からない。例えば何万人であったのか1000人であったのか。

○事務局

ベースは2000人。それで回収率が50ちょっと割っているということです。47, 8ぐらいでしたか、そのぐらいです。

○会長

50%すごいですよ。それだけ関心があったんですね。

○事務局

毎年やって毎年そのぐらいの程度の回収率です。

○会長

基本計画なんかはたくさんありますが、その中で、環境とかに関する項目はいくつかあったと思うが、名張は環境がいいよということだったのか、いやいや危機的だよということだったのか。

○事務局

「自分が住む地域における景観などの環境が良好であると感ずる市民の割合」というのが、現状値で73.7%。これがそうです。26年の市民の意識ですね。

○委員

僕はほんなかくなって。

○事務局

私も何とも言えません。

○会長

7割以上の方がすごくいい環境にいると思っていらっしゃるのね。それは幸せだよ。項目がどういうものを聞いたのか分からないが、これは何気なく、イメージでいいよとい

うことなのか、いくつかのものを聞いたのち、総合的にどうなのかということだったのかにもよると思うけど。

○事務局

これに対しては個々具体の流れ的にはなんら継続性がないので、ただモヤッと名張はどうでしょうかというアンケートです。

○会長

すごいですね。これはよく考えましょう。これをどのようにして維持していくのか。悪くなったと思わないでやっていくためには、相当頑張らないといけないですから。

○委員

環境が悪くなったと思っている市民よりも、多分名張は環境がいいからというので奈良や京都や大阪から移住されてきた方々が団地に住まわれて、今その団地も高齢化していますが、そういう中で、いざ引っ越してきたけど、ではその自然や環境とどうつきあっていくかっていうと、そこまで深くはつきあっていなくて、ただ風景の流れていくままに、きれいなところでしょっていうぐらいの程度の意識の方々がほとんどではないかと私は思います。

だから、そこに対するもう少し突っ込んだ意識は、やはり関わっておられる方はお持ちだと思いますが、その辺をどう仕組んでいくかということがあるかもしれないですね。

○委員

会長、誤解しないでください。さっき、ほんまかいなって思っていると言ったことは、そう僕は思っているけど、名張を大好きであることに関してはダントツやから。だから余計に思うっていうことなんで。

○会長

分かります。アンケートも良し悪しがあって、アンケートなしでやるのはナンセンス。まず、総合計画たるものにはアンケートは絶対とらないといけなくて、市町によっては、こういったテーマごとの1つのバックボーンになるようなものの中には、またアンケートとる場合があるんです。その時にはけっこう専門的なものを入れながら、環境がボヤックとなのか、本当に何なのかということをお次から次に聞くんです。あまり厳しいものを聞くと嫌で途中でやめたら困るので、さりげなく20問ぐらいパーッと書けるようにして。

それがあるとすごくやりやすい。それはかなりお金がかかるので、名張お金はなさそうなので、そういうことができないから。けっこうお金かかります。コンサル頼んだら、頼んだってかかりますし。皆さんでやろうと思ったら、当面、本業全部やめてやらないといけないし、そんなジレンマの中から、幸い、総合計画でやっていたものを使って何とかやっついこうというのは限界があるのはよく分かっていますが、話を聞いてみると、皆さんすごく名張のことに対してよく分かっておられるし。

数値をどうするかは、ちょっと差し置いておいて、ここに、魂も色んな魂があるんですが、書き方、ひしひしとやるんだというのが分かるような書き方をちょこちょこっと入れて揺さぶるようなこととかは、読む方に、あ、ちょっと違うんじゃないかというようなことを分からせる、全て65ページに入れるのは厳しいとしても、基本目標1、2、3、4、5、1番頭書きのところの数行は皆さん力入れて読んでいただいて、頭の前文みたいところはこういうふうに入れようということで、みんな、私たちは同じ運命だからやりま

しょうか。この前文だけでも、行政だけでやるのは酷な話なので、私たちも宿題で、1番最初の前文のところに、よく書かれているんですが、魂。

とにかく、行政も私たち産官学からくる委員もみんな一丸となって、最後の最後まで頑張るんだということでやっていきたいと思いますので、もうしばらく皆さんに付き合ってくださいことにして、暇な時にはこれを持ち歩いていただいて、メモ書きしながら。

場合によっては、1回時間を2時間じゃなくて3時間に、そういう時には前もって3時間ですよというようにやっていきますが、1回ぐらいは、若干ソフトなデスマッチやっただくといいものがあります。これ色んなところでやっているが、たまに立場があるから言えないものを、デスマッチの場合に入ってくるとすごくいいものがあるんですね、使わせていただきましょうかって書きながらやっていくと、イメージとかキャッチはその分です。それと、若干言い過ぎることはあるかもしれないが、それを乗り越えるとみんな仲間意識になって、すごく納得いくものが出てくると評判がいいです。読む人は分かります。さらさらっと書いているものなのか、本気で考えてやったものかは分かる方は分かるので、1回場合によっては3時間ぐらい時間をかけるということもあるかと思うんですが、皆さん大丈夫ですよ、3時間、この場所とか。

○事務局

私どもは問題ございませんので。委員の皆さんお忙しい方ですけど、そんな形で、やっていただければ私どもはありがたいことです。

○会長

では、そしたら今日いろんな意見をいただいて、それから部長の英断によって少し時間をいただきましたので、魂入れる作業は若干やりやすくなりました。本当にありがとうございました。今日決めようと思ったものはあえて決めないで、もう1回宿題で持って帰って次にみんなで作っていききたいと思います。

2. その他

- (1) 次回審議会の開催について
平成28年3月23日(水) 午後2時から
- (2) 源泉徴収事務に係る個人番号届出について
事務局より依頼

○会長

では、今ちょうど2時間経ちましたので、第2回名張市快適環境審議会を終わらせていただきます。ありがとうございました。